

こども若者★いけんぷらす
いけんひろば

こども政策の検証・評価事業への
こども・若者の参画
～こども政策を評価してみよう～

フィードバック資料



こどもまんなか
こども家庭庁



目次

1. 開催概要
2. こどもまんなか実行計画2025について
3. 意見の反映について
- 4-1. 障害の有無に関わらず、共に学び、育つ社会づくりについて
- 4-2. 地方自治体による結婚支援について

1.開催概要

テーマ	こども政策を評価してみよう
担当省庁	こども家庭庁
参加対象者	中学生以上のぷらすメンバー
テーマ説明	<p>A：地方自治体による結婚支援（地域少子化対策重点推進事業） 結婚したいと考えている人たち（特に出会いがなくて結婚できないと考えている人たち）を応援していくために、地方公共団体による取組を支援していますが、現在の取組を聞いてどう思うか、みなさんの意見を聴かせてください。</p> <p>B：障害の有無に関わらず、共に学び、育つ社会づくり（地域障害児支援体制強化事業） インクルージョンを実現するために、障害のあるこどもの支援の専門家が、保育所や学校を訪問し、担任の先生などに対してアドバイスする取組みを行っていますが、どう思うか、みなさんの意見を聴かせてください。</p>
開催日時	2月8日(土)14:00-16:00
開催場所	Otemachi Oneタワー
参加人数	A:7名 B:7名 計14名

2.こどもまんなか実行計2025について

今回のいけんひろばでいただいた意見は、
こども家庭審議会をとおして
こどもまんなか実行計画2025
に反映されました！

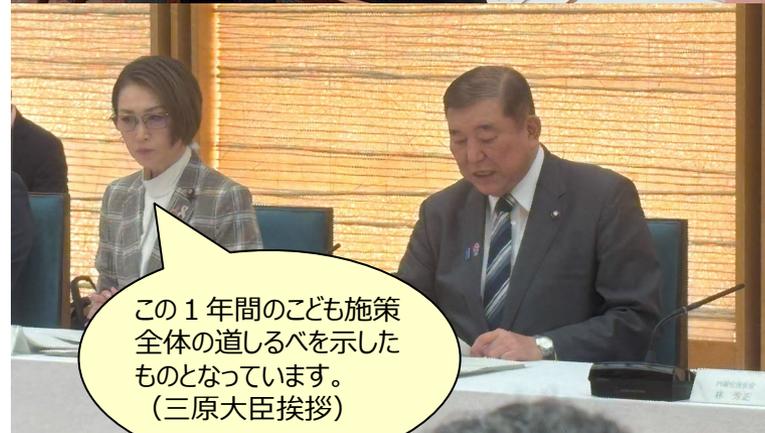
Q. 「こどもまんなか実行計画2025」とは？

- 「こどもまんなか実行計画」は、国がこども施策を進めるときに大事にすることや必要なことを書いた「こども大綱」のもとで、具体的にどんなことに取り組んでいくのか書いたもので、総理大臣と全ての大臣から成る会議（こども政策推進会議）で令和7年6月6日に決定しました。
- すべてのこども・若者が健やかに成長でき、まわりの人とよい関係で、将来にわたって幸せに生活できる、「こどもまんなか社会」をつくるための取組が、詳しく書かれています。

「こどもまんなか実行計画2025」の本文はこちら！

[こどもまんなか実行計画2025](#)

[こどもまんなか実行計画2025（概要）](#)



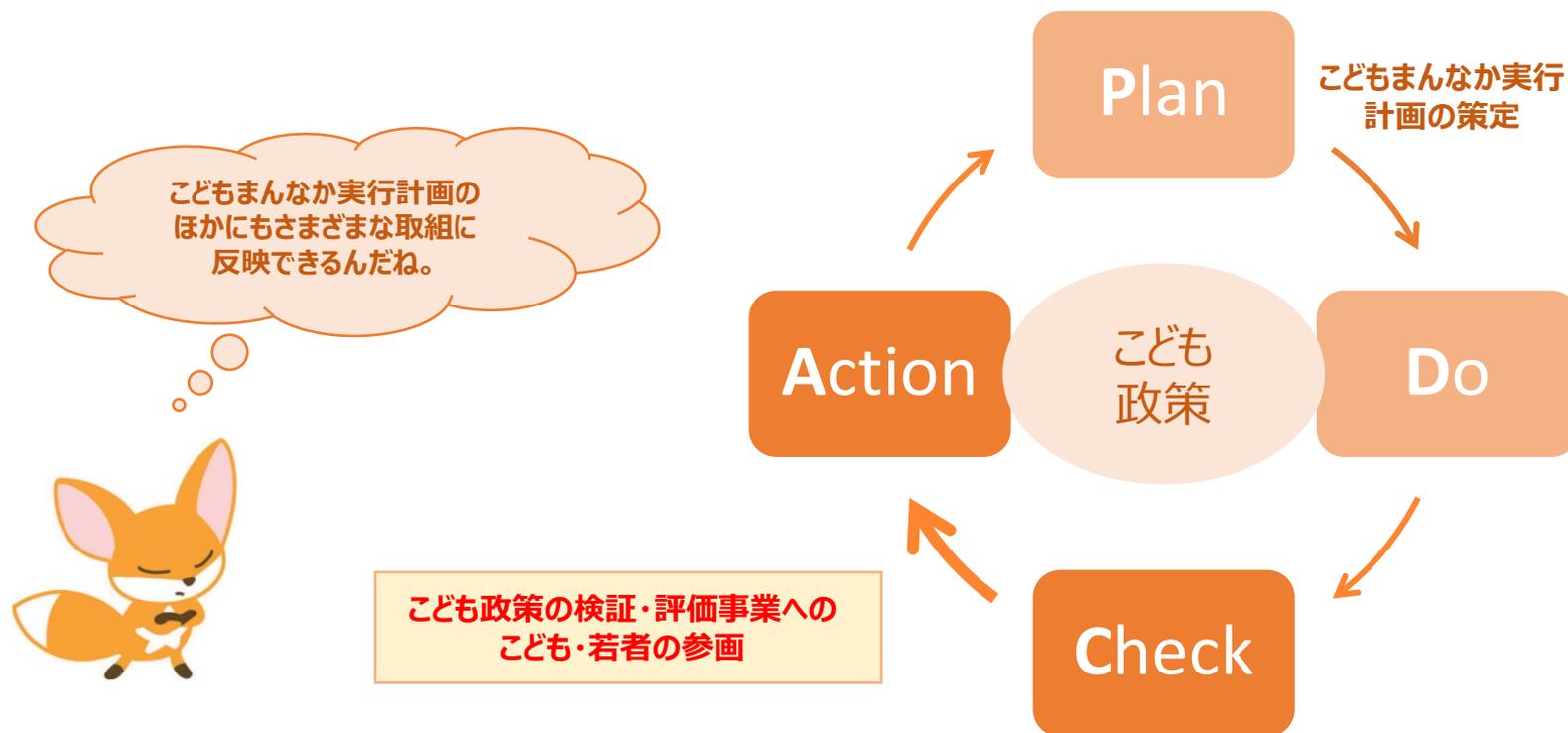
この1年間のこども施策
全体の道しるべを示した
ものとなっています。
(三原大臣挨拶)

3.意見の反映について

こども政策のPDCAを推進する上で、施策の企画立案(P)だけでなく、**検証・評価(C)のプロセスにも、こども・若者の意見を聴く仕組みを取り入れていくことが重要。**

概要

- 「こども若者★いけんぷらす」の枠組みを活用し、こども・若者が評価者となり、有識者（こども家庭審議会委員、こども家庭庁EBPMアドバイザー）の助言・監修を得ながら、こども政策の検証・評価を行う。
- 検証・評価の結果は、「こどもまんなか実行計画2025」等へ反映させるとともに、フィードバック資料として公表する。



4-1. 障害の有無に関わらず、共に学び、育つ社会づくりについて（地域障害児支援体制強化事業）

みなさんの主な意見	ポイント	実行計画の本文
<p>「良いところ」や「足りないところ」はあるか。また、なぜそう思うか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 管理職や担任の先生は、障害のあるこどもの支援の仕方について知識はあるのはわかるが、生徒1人ひとりの個性に合わせたサポートをしてほしいと思った。 病院ではなく、クラスに馴染めない生徒に対し、学校内でもっと相談にのったり話を聞いてくれたら良いのと思った。 	<p>知識だけでなく、障害特性への理解をしてほしい</p> <p>特性に合わせたサポートをしてほしい</p> <p>学校で相談にのってもらいたい</p>	<p>地域における障害児支援体制の強化とインクルージョンの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童発達支援センターの機能強化を図るとともに、保育所等への巡回支援等の充実を図るため、必要な支援を行う。 また、障害の有無にかかわらず全てのこどもが共に育つ環境整備を進める観点から更なるインクルージョン推進の取組を進めるとともに、障害福祉サービス等報酬における充実を踏まえた取組を進める。（P.35） <p>家族支援の充実、障害の早期発見・早期支援、関係機関の連携等</p> <ul style="list-style-type: none"> 発達に特性のあるこどもの個々の状況やニーズに応じた丁寧な支援が行われるよう、地域におけるこどもの多様な発達の特性や生活状況等を踏まえた支援の実態把握や、地域の発達支援の入口段階における取組を強化する。（P.36） <p>障害児支援における人材育成・確保等</p> <ul style="list-style-type: none"> 全国どの地域でも、質の高い障害児支援の提供が図られるよう、研修体系の構築など支援人材の育成・確保等を進める。（P.106） <p style="text-align: right;">等</p>

4-1. 障害の有無に関わらず、共に学び、育つ社会づくりについて（地域障害児支援体制強化事業）

みなさんの主な意見	ポイント	実行計画の本文
<p>「インクルージョンが進んでいる」と思う人の割合を高めるために「誰に対して」「どんなこと」をした方が良いと思うか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 同級生に発達障害があることを打ち明けたところ、「えっ！」と言われて批判された。 インクルージョンが推進されていると思う人を増やすために、障害があるからという理由で批判されたり、差別されたりすることがないように考え方を変えていけばよいと思う。 	<p>こども同士でも相互理解を促進してほしい</p> <p>障害のあるなしに関わらず、全てのこどもたちが安心して一緒に活動できる環境整備は大切</p>	<p>地域における障害児支援体制の強化とインクルージョンの推進</p> <p>児童発達支援センターが地域における障害児支援の中核的役割を担う機関として、</p> <ol style="list-style-type: none"> ①幅広い高度な専門性に基づく発達支援・家族支援機能 ②地域の障害児通所支援事業所に対するスーパーバイズ・コンサルテーション機能 ③地域のインクルージョン推進の中核機能 ④地域の障害児の発達支援の入口としての相談機能の4つの機能を果たすことができるよう、児童発達支援センターの機能強化を図るとともに、保育所等への巡回支援等の充実を図るため、必要な支援を行う。 <p>また、<u>障害の有無にかかわらず全てのこどもが共に育つ環境整備を進める観点から更なるインクルージョン推進の取組を進める</u>とともに、障害福祉サービス等報酬における充実を踏まえた取組を進める。（P.35）等</p>

4-2. 地方自治体による結婚支援について（地域少子化対策重点推進事業）

みなさんの主な意見

ポイント

実行計画の本文

現行の取組みに足りている、
または、足りていないものは？

- ある都道府県が実施したアンケート結果を見ると、民間・行政を問わずライフデザイン等のセミナーに効果を感じている人が少ないと思った。
- セミナーは開催場所や人員の確保にコストがかかるので、他の取組にも注力したほうが良いかもしれない。

ライフデザイン支援
について
セミナー以外にも
方法を検討すること
が重要

結婚や子育てに関する若い世代を主体とする情報発信等

- 多様な価値観・考え方を大前提として、若い世代が安心して気軽に自らのライフデザインに役立つ様々な情報を収集することができるよう、若い世代自身が考案・企画し同世代に向けてライフデザインに関する情報発信を行うプロジェクトチームの運営のほか、ライフステージ毎に異なるニーズを捉え、結婚・子育てに係るデータや支援制度等を含むコンテンツ開発や公開を行う。（P.111）

民間企業等と連携したライフデザイン支援

- 若い世代がそれぞれの価値観に基づき自ら主体的に人生を選択できるようになることを目指し、民間企業等と連携したライフデザイン応援プロジェクトにより、若い世代向けのサービス・商品の開発・普及を支援するとともに、民間企業等による若い世代に向けたライフデザインをサポートする優良な取組の横展開を図る。（P.74）等

その他の取組み

「若い世代の描くライフデザインや出会いを考えるWG」最終報告（令和7年5月）※WG…ワーキンググループ

- 学校・大学、地域、企業等のライフデザイン支援の裾野を広げ、若い世代視点からの情報発信を進めるとともに、それら取組の改善を継続することが重要とされ、WGの議論を踏まえ、若い世代の選択を後押しする取組を更に進める。

4-2. 地方自治体による結婚支援について（地域少子化対策重点推進事業）

みなさんの主な意見

ポイント

実行計画の本文

民間サービスとどのように連携すればよいか？

- AIマッチングシステムを実施することは良いが、方法は検討したほうが良いと思う。
- 民間と行政のサービスの成果の差分を抽出し、自治体が弱い部分は民間企業と共同で取り組んだり、先行事例を参考とするのが有効では。

官民での連携を強化することが重要

ハードルの高さを感じている人たちにどのように対応するか？

- 自治体での成功事例があれば、セオリーを整理して自治体間で横展開できると良い。

自治体間での情報の横展開が重要

伴走型の結婚支援等の推進等

- 地方公共団体が実施する少子化対策の取組について、結婚支援センターの運営、結婚支援事業者との官民連携型結婚支援、AIを始めとするマッチングシステムの高度化、地域の結婚支援ボランティア・事業者等を活用した伴走型結婚支援の充実などの結婚の希望をかなえる取組及び結婚に伴う新生活への経済的支援（家賃、引越費用等を補助）に対し、地域の実情に応じて、より一層創意工夫を活かせるように要件の緩和を実施した地域少子化対策重点推進交付金により支援するとともに、各事業の実績を把握し、交付金活用事例集を作成するほか、優良事例についての情報共有にも努め、優れた取組の横展開を図る。
- 併せて、これまでの実施状況を検証しつつ、若い世代の意識や考え方の把握にも努め、これらに沿った効果的な結婚支援の推進に向けた更なる方策を検討する。（P.86）

地域における結婚・子育てに温かい社会づくり・気運醸成の推進

- 地方公共団体が実施する少子化対策の取組について、企業や民間団体を含めた地域全体で結婚・子育てを応援する気運の醸成、男性の育休取得と家事・育児分担の促進などの結婚・子育てに温かい社会づくり・気運の醸成を図る取組に対し、地域少子化対策重点推進交付金により支援するとともに、各事業の実績を把握し、交付金活用事例集を作成するほか、優良事例についての情報共有にも努め、優れた取組の横展開を図る。（P.110）等

こども・若者によるこども政策の検証・評価事業に対する有識者の声(こども家庭審議会基本政策部会)

- 今回の取組に参加できて、とても良い機会だったと思います。「もっと早くやってみてもよかったな」と感じるくらいです。
- 正直に言うと、大人が考えるような「政策評価」とは少し違うかもしれません。でも、みなさんが話してくれたことには、これから考えていくための大切な視点や情報がたくさんありました。とても貴重な時間だったと思います。
- これからの未来に向けてのヒントも得られました。特に「障害」についての意見は、日本にとってもとても大事なことだと感じました。国連の「こどもの権利委員会」でも、「いろいろな子どもの声をきちんと聞くことが大切」と言われています。そういう意味でも、今回のような取組をスタートできたことは、本当に価値があると思います。
- これからも、こうした機会をぜひ続けてほしいです。若い人たちの声を聞くことは、とても大切だと改めて感じました。次の機会も楽しみにしています。

- 今回の取組に参加できて、私にとってもとても貴重な経験になりました。
- この「検証・評価」の取組では、事前にオンラインで2回勉強会を行い、本番は東京で対面で集まりました。遠くから来てくれた人もいて、2つのグループに分かれて、円卓のような形で座りながら話し合いました。若い人たちが積極的に意見を言ってくれて、とても良い雰囲気でした。
- 私から伝えたいことは3つあります。1つ目は、参加してくれた若者たちが、事前に自分でいろいろ調べてから発言していたことです。私が担当したのは「少子化対策」のテーマでしたが、特に中学生の女子がしっかりした意見を言ってくれて、「中学生でも政策について考えて発言できるんだ」と気づかされました。
- 2つ目は、ファシリテーター（進行役）の方の存在です。とても穏やかで、若者の意見をうまく引き出してくれました。そのおかげで、みんなが自由に、遠慮せずに話せたと思います。
- 3つ目は、「こども・若者の参加」についてです。この基本政策部会でも話し合われていましたが、委員会や審議会に若者が入ることも大事です。でも、それだけでなく、今回のように検証や評価の場で意見を集めることも、とても効果的だと思いました。資料にも書かれているように、いろいろな形で声を聴くことが大切だと感じました。

- 今回のように、こどもや若者が政策について意見を言える仕組みは、とても大切だと思います。こうした取組が、もっといろいろな政策にも広がって、これからも続いていくことを願っています。
- 「インクルージョン（みんなが一緒に参加できること）」のテーマの中で、おそらく発達障害のある方からの意見が紹介されていました。「差別されないように、考え方を変えてほしい」という声は、本当に大切にしなければならぬと思いました。
- 当事者の声をもとに、こどもや若者に関わる行政の中でも、しっかり話し合っていく価値があると思いました。

- この「検証・評価」の取組に、こどもや若者が参加するという取組に賛成です。
- こども家庭庁だけでなく、ほかの省庁とも協力して、今回のような取組を広げていくことが必要だと思います。
- 今回の参加者が5人ほどだったということで、少し人数が限られていたように感じました。もっと多くのこどもや若者の意見を聴けるような形にしていくことで、この事業がさらに良くなっていくと思います。
- こどもや若者が、政策の効果や内容について意見を言える場をつくることは、とても意味のあることです。これからも、こうした取組が続いていくことを期待しています。

- こどもや若者が政策の評価に参加するという取組は、とても大切だと思っています。また、今回の内容もちろん大事ですが、それ以上に「この仕組みをどう広げていくか」が重要だと感じています。
- 今、全国の市や町では「こどもの意見を聴いて政策に活かす」取組が始まろうとしています。でも、「何を聞けばいいのか分からない」と悩んでいる自治体も多いようです。
- こども政策を担当する部署が、他の部署と連携しづらいことや、「もう計画を作ったから十分では？」という空気もあって、意見を聴くことが後回しになってしまうこともあります。
- だからこそ、政策の評価にこどもや若者の声をしっかり入れることが大切です。今回のような取組が、毎年続けていくための「ひとつの型」になるといいなと思います。
- たとえば「こども若者★いけんぶらす」で、どうやってEBPM（証拠に基づく政策作り）を教えているのか、どんな流れで評価を進めたのかなど、自治体の人たちが参考にできる情報をもっと公開されるとありがたいです。

- この取組、とてもおもしろいと思いました。「こども若者★いけんぶらす」に登録している人の中から参加者を選んでいると思いますが、登録している人の数が少ないなと感じています。
- 中学生から20代までたくさんの方がいるはずなのに、登録者は3,000~4,000人くらいしかいないと聞きました。今回も10人にしぼっての実施だったと思いますが、そもそも「いけんぶらす」を見つけて登録している人は、情報に敏感な人が多いと思います。
- だからこそ、もっといろいろな場所から、もっと多くのこどもや若者の声を集められる仕組みがあると、より広い意見が聴けていいなと思いました。